

築百二十年

古民家

『聴福庵』

きんぷく

ふく

あん

ミマモルジュメールマガジン

〈特別企画 聴福庵特集〉

ものの数え方

一枚、一個、一頭…といった、数字の後につく「助数詞」

日本語にはなんと、500種もの助数詞が存在しているようです。

しかし、今実際に使われている物は、100種程度だそうです。



【掛け軸 / 木像】

一幅 (いっぷく)・一軸 (いちじく)・一本 (いっぼん) / 一軀 (いっく)・一体 (いったい)

『聴福庵』には、昔ながらの道具も多く、暮らしの中で子どもたちへ、ものの数え方も伝えていきます。



【鏡餅】

一重ね (ひとかさね)。餅を重ねてあるので、「重ね」。のし餅は「枚」、切り分けたものは、「切れ」「個」、丸餅は「個」で数えます。



【暖簾 (のれん)】

一垂 (ひとたれ)



【草鞋 (わらじ)】

一足 (いっそく)



【炬燵 (こたつ)】

一炬 (いっきよ)・一台
※掘り炬燵 『一基』



【杵 (きね) / 臼 (うす)】

一本 / 一基 (いっき)・一据 (ひとすえ)



【提灯 (ちょうちん)】

一張 (ひとはり)・いっちょう



【蠟燭 (ろうそく)】

一本・一挺 (丁) (いっしょう)



【重箱 (じゅうばこ)】

一重 (いちじゅう・ひとかさね)



【囲炉裏 (いろり)】

一基 (いっき)



【線香/煙】

一本・一把・一束・一箱・一卷き/
一条・一筋 (ひとすじ)



【簾 (すだれ)】

一領 (いちりょう)・一枚・一重 (ひとかさね)



【石灯籠 (いしとうろう)】

一基 (いっき)・一個



【浴槽 (よくそう)】

一据 (ひとすえ)・一桶 (ひとおけ)



【行灯 (あんどん)】

一灯 (いっとう)・一基 (いっき)
一張 (ひとはり)



【襖 (ふすま)】

一領 (いちりょう)



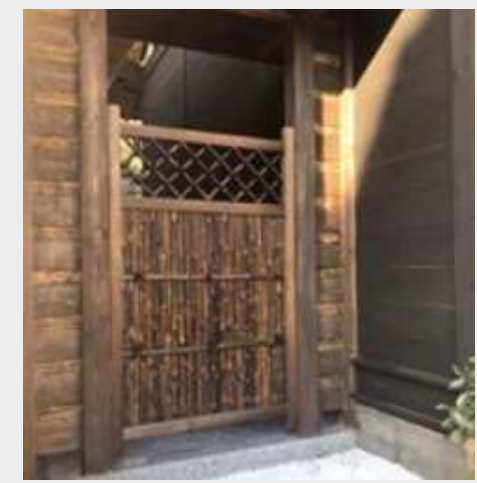
【畳】

一畳・一枚



【井戸 (いど)】

一本・一基 (いっき)



【門 (もん)】

一棟 (いっとう)・一基 (いっき)



写真上段：和包丁（用途によって使い分けます） / 棚 / 鬼おろし / 水屋箆笥
写真下段：かまど / 鯉節削り / コーヒーミル / 長机と廃校で使われなくなった椅子

『台所の道具』



『聴福庵』の台所には、現代の一般家庭では見られない様々な道具があります。

竈もその一例ですが、炊飯器のようにスイッチ一つで炊き

あがるわけではなく、火加減や蓋がグツグツする様子、ご飯の匂いをちゃんと見聞きしていなくてはいけません。

電気ポットを使えばあっという間にお湯も沸きますが、鉄瓶でお湯が沸くのを待ち、一杯の茶を啜るのも粋なものです。

電気屋さんでは購入できない代物が『聴福庵』には、たくさんあります。最新機器に比べれば手間は掛かりますが、手間暇掛かる分、味わいも一層増してきます。



写真上段：竈ご飯 / 焼き餅 / もつ鍋 / 筑前煮

写真下段：梅梅干し（天地返し） / 炊き込みご飯 / 地物野菜

『食事』



料理を始めると、どこの部屋にいても自然と、料理の匂いや包丁でトントン切っている音が聞こえてきます。

その匂いや音に誘われ、台所へ行くと鍋から出る湯気に一層食欲が湧いてきます。一口味見をさせてらうと、「お腹空いた、早く食べたい!!」そんな気持ちになってきます。

竈ご飯の蓋を開ける瞬間、毎回見入ってしまいます。そして、次の瞬間上に真っすぐ伸びる湯気を目で追い、湯気が消えると現れるふっくら炊きあがったご飯は、何度食べても美味しく、何杯もおかわりしたくなる味わいです。

皆で作って、皆で食べる。当たり前なことかもしれませんが、食事シーンは『聴福庵』の醍醐味のひとつです。



左上：かぐや姫の掛け軸とかぐや姫と翁の銅像
他写真：季節の草花

右上：正月飾り



『室礼』
しつらい

日本には古来より、お正月やひな祭り、七夕のような四季折々の行事や、来客など日常の出来事の度に季節を取り入れた調度を『しつらえる』という文化があります。

『しつらえる』とは室内を清め、飾りを施し、人を迎える準備を行うことを言います。

私たち株式会社カグヤは、かぐや姫（竹取物語）を社名の由来としており、2階の客間に「竹取の間」があり、その部屋には、かぐや姫に関する調度品を設えています。

また、時季に沿った草花は、暮らしに潤いを与え、季節の巡りを教えてくれます。『聴福庵』を通して、日本の古来からある行事や文化、暮らしを子どもたちへ伝えていきます。

『聴福庵』からの発信情報

『聴福庵』 Youtube ときめき動画 2017年6月～11月

【2017年6月】 <https://youtu.be/0zO-9KNGNOS>

【2017年7月】 https://youtu.be/sQvGRVI97_w

【2017年8月】 <https://youtu.be/gMOVmEnvlig>

【2017年9月】 <https://youtu.be/ybzO75n7Czk>

【2017年10月】 <https://youtu.be/WrLv6LAoLSQ>

【2017年11月】 <https://www.youtube.com/watch?v=be8Ew6YYfP0>

【タイムラプス】棟上げ動画①～③

<https://www.youtube.com/watch?v=fTXlcSNe27E>

<https://www.youtube.com/watch?v=3mHNaJsAU4A>

<https://www.youtube.com/watch?v=AnzFQfXfU3w>

【タイムラプス】瓦葺き動画 1日目～3日目

<https://youtu.be/Y1ZVNCsb2JY>

<https://youtu.be/ik0kvG81HIs>

<https://youtu.be/jEYMnA4lapc>

『聴福庵』フェイスブック



<https://www.facebook.com/神家総本家-聴福庵-150043302388330/>



【大工】鹿島技研

【左官】原田左研、小林工務店

【桶】松延工芸

【畳】佐野畳店、淵野聡さん

【和紙】秋月和紙

【井草生産者】熊本県八代の生産者の皆様

【内装】松尾内装

【唐紙】株式会社雲母唐長

【室礼】佐藤禎三さん

【織物】下川織物

【竹細工】竹虎四代目

【漬物屋】田蔵漬物店

【瓦】野殿工務店

【石屋】地元の石材屋さん

【井戸屋】赤坂ボーリング

【貝職人】福田様

【農】藤崎農場 平野さん 川口さん

【大学】近畿大学九州短期大学 瓜生先生・NPO 法人呼吸大学

幸袋の皆様・恩袋会の皆様・株式会社エヌアイティ（順不同）

【聴福庵を通して思うこと】

『聴福庵』は先月末の3月で丸2年の月日が経ちました。

この1年は見違えるほど変化の大きな年で、今後の「聴福庵史」においても重要な1年になるのではないかと思います。それは、単に建物が修繕されていったという意味だけではなく、クルーの日々の暮らしにも変化をもたらし、多くの先生方にも来庵や宿泊をして頂き、『聴福庵』を通して新たな関係を構築することにもなりました。

この1年の実践を振り返ることで、その時には気づけなかったことも見えてくるものがありました。ただ、もっと注意深く『聴福庵』を見つめたら、気づいていないだけで日本人の智慧が様々なところに詰まっていると思うのです。

『聴福庵』の大切にしていることの一つに、「教えずして教えていきます。」というものがあります。まさに、このことを自分自身が実感し、学び、だからこそ飽きることはありません。むしろ、知れば知るほど奥深さを感じ、日本文化の尊さを感じるのです。

『聴福庵』があるのも、多くの職人さんやパートナーの皆さんがあってこそで、私たちだけで実現し得ないことも、職人さんのお力をお借りし、支えて頂いていることを感じます。

そして、季節は巡り『聴福庵』に3度目の春が訪れました。

これから先、『聴福庵』がどういったご縁を導いてくださるのか、今はまだ分かりませんが、季節の巡りのように「今」という時を楽しんでいきたいと思えます。

2018年4月9日 株式会社カグヤ 奥山卓矢

 caguya

〒161-0023

東京都新宿区西新宿 3-2-11 新宿三井ビルディング 2号館 10階

Tel:03-5909-7155

毎週月曜日に配信しています。

ミマモルジュメールマガジン発行：株式会社カグヤ 奥山卓矢

ミマモルジュメールマガジン



メールマガジンのご登録は、
QRコードからお願いします。



囲炉裏の間